

「日経MJ」2009年8月26日(水)より

№12,039円(うち消費税697円)・1部170円

2009年(平成21年)8月26日(水曜日) 日経MJ

16

写真と俳句を融合させた「フォト五七五」の人気の高まりが広がっている。旅先や街角の一瞬を切り取った写真と、情景を詠み上げた俳句を結びつける「新感覚のビジュアルアート」として注目を集めている。写真や俳句とはちょっと趣の違った深みや温かみを伝えたり、味わえたりするのが魅力のようだ。

フォト俳句 気軽さ人気 奥深い

8月中旬、東京・京橋の一室で開かれた「銀座フォト句会」。フォト五七五を共通の趣味とする13人が、持ち寄った作品を机上に並べると、共感したり気に入ったりした作品へ次々と付せんをはり付けていく。互選で多くの得票を獲得したのは、参加5回目だという茨城県古河市に住む嶋村寛さん(58)。都心のブランドショップに映るモデルを題材に「強がれど 耳朶(じだ)を伝うや 酒涙雨(さいるいう)」という句を詠んだ。

その嶋村さんは「フォト五七五を始めると俳句はもちろん、写真すらやることがなかった」と打ち明ける。昨年7月にフォト五七五と出会い、最近では自作を作品集としてまとめるほどの入込みようだ。嶋村さんも「ここまで没頭するとは思っていません」と笑う。

何が多くの人を引き付けるのか。もともと写真を撮ることが趣味だったという同会の幹事役、内藤えつ子さん(56)は「たよ写真をうまく撮れたとしても、それに俳句がなじまなければ作品としては落第。逆もまた同じ。だからこそ奥が深い」と語る。「どちらも完璧な人なんていないからこそ、お互いに批評しあひながら作品の質を高めていける。俳句や写真の世界のような権威っぽさもないので、誰でも飛び込みやすい」といいます。

たしかにフォト五七五の楽しみ方は明

今度こそ射止めておくれキュービッド



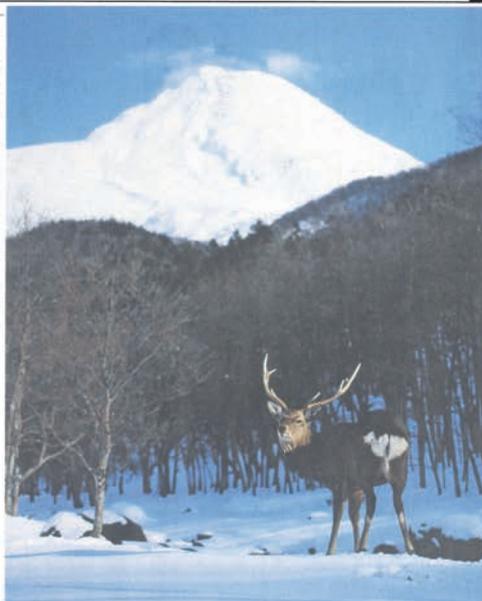
持ち寄った「フォト五七五」に目を通す
銀座「フォト句会」の賑々(東京都中央区)

快だ。俳句のように季語などの難し制約は一切ない。皮肉やユーモアを効かせた川柳だっていい。型にはまらない懐の広さが醍醐味(だいごみ)だ。作品づくりに際しては、写真を撮ってから俳句を詠む「先写後句(せんしゃこうく)」と、句を詠んでからそれにふさわしい写真を撮る「先句後写(せんくこうしゃ)」がある。写真の腕に覚えがあるなら前者を、俳句が得意だという人には後者を選ぶとやりやすいだろう。「銀座フォト句会」で講師を務めていた板見浩史さんに秘訣をたずねると、「写真の魅力でつかみ、句でじっくり読ませる。重要なのは、句

写真と句は「不即不離」

短くも滴の命輝けり

白峰や北の美男に一目惚れ



が写真の説明になっていないこと。写真で表現されていることを言葉にする必要はなく、写真と句は「不即不離」の関係が理想的」と教えてくれた。最近では、パソコンの画像編集ソフトを使いこなして作品を発表する中高年も増えている。その代表例は作家の森村誠一さんが主宰する「写真俳句ブログ」(http://shashin-haiku.jp/)だ。60代以上の男女を中心に、800人が登録しており、自由に作品を投稿してはお互いに批評したりして盛り上がっている。

「五月雨を あつめて早し 最上川」
「夏草や 兵どもが 夢の跡」――。大阪市に住む小川徹さん(66)は今年7月、俳人・松尾芭蕉の足跡をたどって名勝地の風景を写真に収めてきた。自宅へ戻ってからは、こうした名句に写真を重ねて芭蕉の詠んだ光景に思いをめぐらせた。「芭蕉が目にした情景とはこんなふうだったのかなと考えるのも楽しい」と話す。愛好者を増やすにつれ、フォト五七五は新しい楽しみ方を生み出してすそ野を広げている。(渡辺淳)



美しきものの影には花の蜘蛛

ブームの予感



「フォト俳句」?

あ、社長。
今週も無断掲載ですけど、
今週はポストカード印刷の宣伝ですから。
ちなみに、「営業担当」応募ゼロ。
どかが「失業率過去最高」やねん。(T)

二週続けた求人関係に飽きたので、今週は写真です。
隔日発行の新聞『日経MJ』によると、「フォト俳句」ってのが、人気らしいです。
そんなこと聞いたことないなあ、と、思って記事を最後まで読むと、こんなことが書いてました。
(大阪市に住む小川徹さん(66)は今年7月、俳人・松尾芭蕉の足跡をたどって名勝地の風景を写真に収めてきた)
これ、ありますね。ほくも、入江泰吉さんの写真を真似たくて、奈良の薬師寺の大池に行きましたもの。

印刷も編集も製本も
原稿作成もしています